

れい わ ねん ど
令和 8 年度きゅうぞうえんせこうかんりぎじゅつけんてい
1 級 造園施工管理技術 検定
だいいちじけんていしけんもんだい
第一次 検定・試験 問題 B

つぎちゅういよかいとう
次の注意をよく読んでから解答してください。

ちゅうい
【注 意】

1. これは第一次検定の試験問題Bです。表紙とも10枚あります。
HBの鉛筆又はシャープペンシルで、解答用紙（マークシート）に試験地、氏名、受験番号を記入してください。
受験番号は該当する数字をぬりつぶしてください。（万年筆・ボールペンの使用は不可）
2. 問題は全て必須です。29 問題全部を解答してください。

問題番号	解答記入欄			
問題 1	①	②	③	④
問題 2	①	②	③	④
問題 10	①	②	③	④

かいとうようし
解答用紙は

となっていますから、

もんだいばんこうたいおうかいとうきにゅうらんせいかいおもすうじ
問題番号に対応する解答記入欄の正解と思う数字をぬりつぶしてください。

もんだいせいかいひとふたいじょうとくてん
問題 1 ～ 23 については正解が一つしかないの、二つ以上ぬりつぶすと得点になりません。

もんだいせいかいすべせいかいすうじすべ
問題 24 ～ 29 については正解を全てぬりつぶしてください。正解の数字を全てぬりつぶしてないものや、正解でない数字までぬりつぶしてあるものは得点になりません。

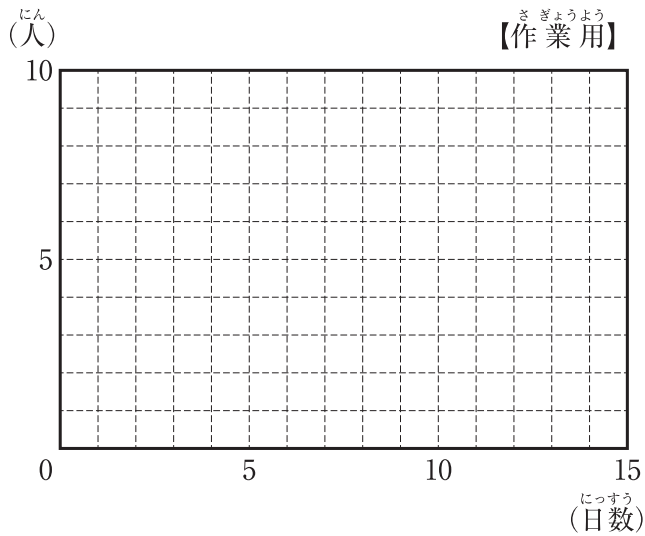
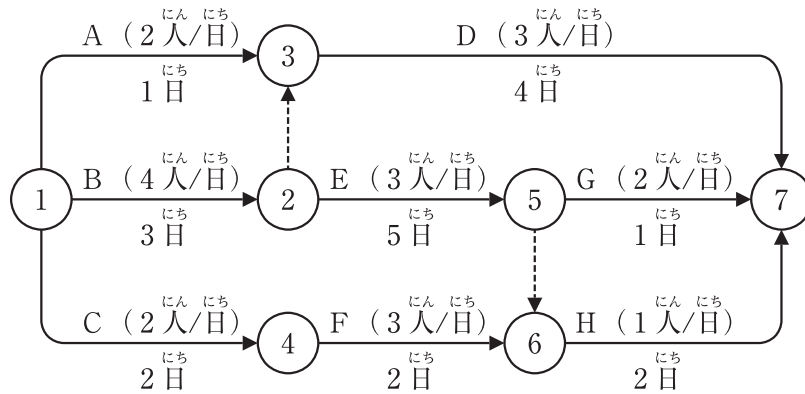
かいとうかたかいとうようしかいとうきにゅうれいかたさんしょう
解答のぬりつぶし方は、解答用紙の解答記入例（ぬりつぶし方）を参照してください。

かいとうていせいばあいきけけていせい
解答を訂正する場合は、消しゴムできれいに消してから訂正してください。

3. 試験問題の漢字のふりがなは、問題文の内容に影響を与えないものとします。
4. 試験問題の余白は、計算等にもさしつかえありません。
5. 解答用紙は、いかなる場合も持ち帰りできません。試験監督者に直接提出してから退室してください。
6. 試験問題は、試験終了時刻（15 時 45 分）まで在席した方で、希望者に限り持ち帰りを認めます。途中退室者は、持ち帰りできません。

※ 問題は全て必須ですから、29 問題全部を解答してください。

- 〔問題〕 1) 下図に示すネットワーク式工程表で表される工事において、ピーク時の作業員数が最小となるような配員計画とした場合のピーク時の作業員数として、正しいものはどれか。
- ただし、図中のイベント間のA～Hは作業内容を、日数は作業日数を表す。



- (1) 6人
(2) 7人
(3) 8人
(4) 9人

- 〔問題〕 2) つぎ しめ じょうけん 次^{ただ}に示す条件で、ほぐした土量^{どりょう} 1,500 m³ の土を運搬^{つち うんぱん}するために必要な最小日数^{ひつよう さいしょうにつう}として、正しいものはどれか。
- ただし、じんいん きかい じん び およ あとかたづ 人員や機械などは現場に用意されており、準備及び跡片付けなどの時間は考^{じ かん こう}慮^{りょ}しないものとする。

〔条件〕

- ・ダンプトラックの台数^{だいすう} : 3 台^{だい}
- ・ダンプトラックの積載量^{せきさいりょう} (ほぐした土量^{どりょう}) : 5 m³
- ・ダンプトラックのサイクルタイム : 30 分^{ぶん}
- ・ダンプトラックの作業効率^{さぎょうこうりつ} : 0.9
- ・ダンプトラックの1日平均作業時間^{いちにちへいきん さぎょう じ かん} : 6 時間^{じ かん}
- ・土量換算係数^{どりょうかんさんけいすう} : 1.0

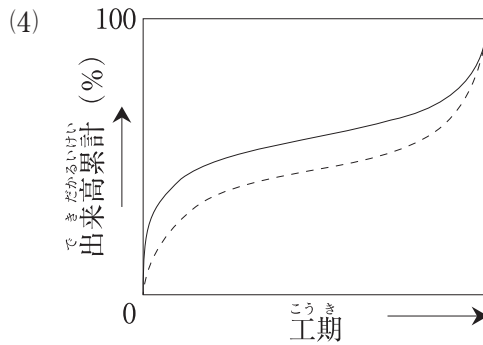
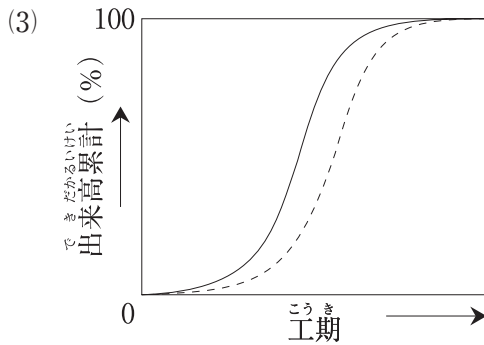
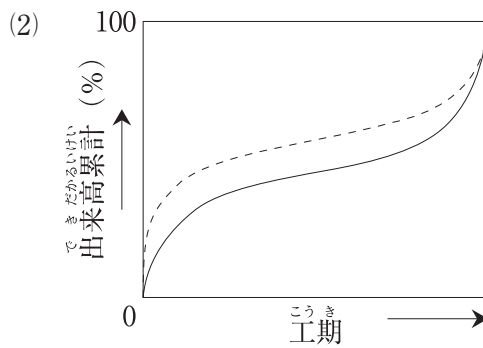
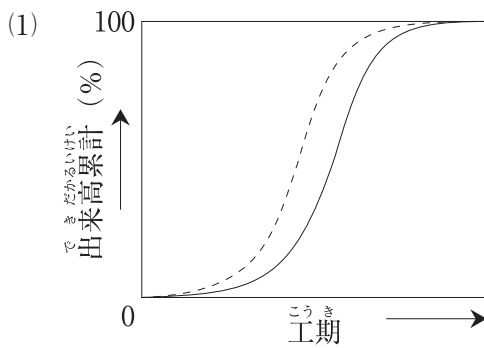
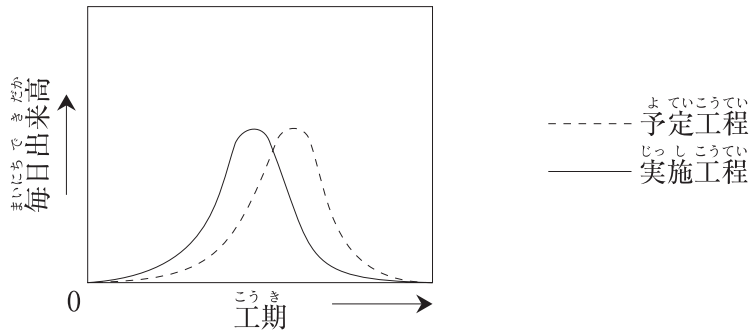
- (1) 7 日^{にち}
- (2) 8 日^{にち}
- (3) 9 日^{にち}
- (4) 10 日^{にち}

- 〔問題〕 3) こうてい かん り もち こうてい ず ひょう かん き じゅつ てきとう 工程管理に用いられる工程図表に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) バーチャートを用いると、各作業^{もち}の所要日数^{かく さぎょう}や工期^{しやうにつう}に影響^{こう き えいきよう}する作業^{さぎょう}を明確^{めいかく}に把握^{はあく}できる。
- (2) ガントチャートは、作成^{さくせい}が容易^{ようい}であり、現時点^{げん じ てん}における各作業^{かく さぎょう}の進捗^{しんちょく}度^ど合^{あい}を明確^{めいかく}に把握^{はあく}できる。
- (3) 工程管理曲線^{こうてい かん り きよくせん}は、予定工程曲線^{よてい こうてい きよくせん}と実施工程曲線^{じつ し こうてい きよくせん}のずれが許容可能な範囲^{きよう か のう はん い}であるか否^{いな}かの判定^{はんてい}に活用^{かつよう}できる。
- (4) ネットワーク式工程表^{しきこうてい ひょう}を用いると、各作業^{もち}のトータルフロート^{かく さぎょう}を算出^{さんしゅつ}でき、人員^{じんいん}の平準^{へいじゆん}化^かの検討^{けんとう}に活用^{かつよう}できる。

〔問題〕

4) ある工事における毎日の出来高に対する予定工程曲線と実施工程曲線を示したグラフを作成したところ、下図のようになった。これに対応する出来高累計曲線の図として、適当なものはどれか。



〔問題 5〕 「公共緑化樹木等品質寸法規格基準（案）」に関する記述のうち、**適当でないもの**はどれか。

- (1) この基準（案）は、主として都市緑化の用に供される公共緑化樹木等について、品質と寸法を定めたものであり、樹木等の搬入（納品）時に適用すべきものである。
- (2) 樹木の品質規格のうち樹姿については、「樹形（全形）、幹（高木にのみ適用）、枝葉の配分、枝葉の密度、下枝の位置」の5項目により表示される。
- (3) 樹木の品質規格のうち樹勢については、「生育、根、葉、枝、病虫害」の5項目により表示される。
- (4) シバ類の品質規格については、「葉、ほふく茎、根、病虫害、雑草等」の5項目により表示される。

〔問題 6〕 「公共緑化樹木等品質寸法規格基準（案）」における用語の定義に関する記述のうち、**適当でないものはどれか**。

- (1) 「根鉢」とは、樹木等の移植に際し、土をつけたまま根系を掘り上げ、その表面をわら縄その他の材料で十分締め付けて巻き上げることをいう。
- (2) 「単幹」とは、幹が根元近くから分岐せず一本であるものをいう。
- (3) 「寄せ株育成物」とは、数本の樹木等を根際で寄せて、この部分を一体化させて株立状に育成したものをいう。
- (4) 「ふるい掘り」とは、樹木等の移植に際し、土のまとまりをつけずに掘り上げることをいう。

〔問題 7〕 植栽基盤の調査に関する次の(イ)、(ロ)の記述について、(A)、(B)に当てはまる「良」、「不良」の組合せとして、**適当なものはどれか。**

(イ) 長谷川式土壌貫入計を用いて、対象土壌の硬度を測定したところ、深さ20 cm～30 cmの土層で、S値が0.6 cm/drop～0.8 cm/dropの範囲で連続していたので、植栽基盤として(A)と判定した。

(ロ) 長谷川式簡易現場透水試験器を用いて、対象土壌の透水性を測定したところ、最終減水能が8 mm/hrであったので、植栽基盤として(B)と判定した。

- | | | |
|-----|-----|-----|
| | (A) | (B) |
| (1) | 良 | 良 |
| (2) | 良 | 不良 |
| (3) | 不良 | 良 |
| (4) | 不良 | 不良 |

〔問題 8〕 次に示す測定値から求められる統計量(A)、(B)の組合せとして、**正しいものはどれか。**

測定回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
測定値	19	26	29	18	19	27	19	29	20	24

統計量 (A) : R (レンジ)

統計量 (B) : Mo (モード)

- | | | |
|-----|-----|-----|
| | (A) | (B) |
| (1) | 11 | 19 |
| (2) | 11 | 23 |
| (3) | 22 | 19 |
| (4) | 22 | 23 |

- 〔問題 9〕 石材（JIS A 5003）に関する次の記述の（A）～（C）に当てはまる語句及び数値の組合せとして、**適当なものはどれか。**

割石は、面が原則としてほぼ方形に近いもので、控えは（A）とし、面と直角に測った控えの長さは、面の最小辺の（B）倍以上であること。
板石は、厚さが（C）cm 未満で、かつ幅が厚さの3倍以上であること。

- （A） （B） （C）
- (1) 二方落とし ——— 1.2 ——— 15
- (2) 四方落とし ——— 1.5 ——— 20
- (3) 四方落とし ——— 1.5 ——— 15
- (4) 二方落とし ——— 1.2 ——— 20

- 〔問題 10〕 呼び強度 21 (N/mm²)、スランプを 12 cm と指定した、レディーミクストコンクリート（JIS A 5308）である普通コンクリートについて3回の試験を行ったところ、下表に示す試験結果を得た。この場合、レディーミクストコンクリートの規定に照らし、**不合格となる試験項目はどれか。**

試験項目	試験結果		
	1 回目	2 回目	3 回目
圧縮強度 (N/mm ²)	19.5	21.0	23.0
スランプ (cm)	15.0	12.5	13.5
塩化物含有量 (Cl ⁻ 量として) (kg/m ³)	0.25	0.28	0.23
空気量 (%)	5.9	4.5	3.3

- (1) 圧縮強度
- (2) スランプ
- (3) 塩化物含有量
- (4) 空気量

【問題 11】 建設工事における品質管理に関する記述のうち、**適当でないものはどれか。**

- (1) 品質標準は、施工に際して実現しようとする品質の目標であり、設計品質に対して余裕のある設定としなければならない。
- (2) ヒストグラムは、データが規格値を満足しているかどうかを確かめるものとして用いられる。
- (3) 管理図は、一般に工程の安定性を判定するために使用され、点の並び方にかかわらず、点が全て管理限界線内にあれば、工程が安定している状態にあると判定される。
- (4) 管理しようとする品質特性は、最終品質（設計品質）に影響を及ぼすと考えられるもののうち、できるだけ工程の初期で測定できるもの、または、早期に結果が得られるものがよい。

【問題 12】 「工種」と「品質特性」及びその「試験方法」に関する組合せとして、**適当なものはどれか。**

- | | （工種） | （品質特性） | （試験方法） |
|-----|-----------|--------|-----------|
| (1) | 土工 | 含水比 | 平板載荷試験 |
| (2) | 路盤工 | 支持力 | 現場 CBR 試験 |
| (3) | コンクリート工 | 安定性 | スランプ試験 |
| (4) | アスファルト舗装工 | 平坦性 | コア採取による測定 |

【問題 13】 造園工事における高所作業に関する記述のうち、「労働安全衛生規則」上、**誤っているものはどれか。**

ただし、各設備の構造は丈夫であり、たわみが生じるおそれがなく、かつ、著しい損傷、変形又は腐食がないものとする。

- (1) 高さ 3 m の枠組足場の作業場所において、床材 2 枚を平行に隙間 2 cm で並べて、幅 50 cm の作業床を設置した。
- (2) 高さ 3 m の枠組足場の作業場所において、物体の落下防止措置として、高さ 12 cm の幅木を設置した。
- (3) 高さ 3 m の架設通路において、墜落により労働者に危険を及ぼすおそれのある箇所に、高さ 90 cm の丈夫な手すり、及び高さ 30 cm の柵を設置した。
- (4) 高さ 3 m の作業場所において、勾配が 25 度の架設通路を設けることになったため、通路表面に滑止めを設置した。

〔問題 14〕 労働安全衛生管理体制に関する記述のうち、「労働安全衛生法」上、正しいものはどれか。

- (1) 常時20人の労働者を使用する事業場においては、産業医を選任しなければならない。
- (2) 常時30人の労働者を使用する事業場においては、統括安全衛生責任者を選任しなければならない。
- (3) 常時40人の労働者を使用する事業場においては、衛生管理者を選任しなければならない。
- (4) 常時50人の労働者を使用する事業場においては、安全管理者を選任しなければならない。

〔問題 15〕 建設機械等を使用する作業のうち、「労働安全衛生法」で定める都道府県労働局長の免許又は技能講習修了の資格を必要としないものはどれか。ただし、職業訓練の特例、道路交通法に規定する道路上の走行を除く。

- (1) つり上げ荷重が2tの移動式クレーンの運転
- (2) 最大荷重が2tのフォークリフトの運転
- (3) 機体重量が2tのバックホウの運転
- (4) 最大積載量が2tの不整地運搬車の運転

〔問題 16〕 車両系建設機械の安全管理に関する記述のうち、「労働安全衛生法」上、誤っているものはどれか。

- (1) 最高速度が15 km/hのブルドーザにより作業を行う際は、あらかじめ、当該作業に係る場所の地形、地質の状態等に応じた適正な制限速度を定め、それにより作業を行う必要がある。
- (2) バックホウの作業を安全に行うために必要な照度が保持されていない場所においては、前照灯を備える必要がある。
- (3) バックホウによる土砂の掘削積込の作業において、労働者が旋回範囲に立ち入る際は、当該労働者がバックホウの運転者に直接合図を行う必要がある。
- (4) 岩石の落下等により労働者に危険が生ずるおそれがある場所で、ブルドーザによる掘削押土を行う際には、ブルドーザに堅固なヘッドガードを備え付ける必要がある。

〔問題 17〕 「都市公園法」に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 都市公園は、国又は地方公共団体以外の者でも特定の要件を満たす者であれば、これを設置することができる。
- (2) 公園管理者以外の者が、競技会、集会、展示会のために設ける仮設工作物について、その占有の期間が3か月を超えない場合は、公園管理者の許可を受けずに都市公園を占有することができる。
- (3) 公園管理者は、都市公園の公衆の利用に著しい支障を及ぼさないなど、一定の条件に適合する場合は、保育所や老人福祉センターについて占有の許可を与えることができる。
- (4) 都市公園の占有の期間の上限は、占有物件の種類によらず3か月である。また、これを更新するときの期間の上限についても同様である。

〔問題 18〕 「都市緑地法」に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 緑の基本計画は、市町村が定める、当該市町村の緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画のことである。
- (2) 市民緑地とは、地方公共団体または緑地保全・緑化推進法人が土地等の所有者と市民緑地契約を締結して、当該土地等において設置・管理を行う、住民の利用に供する緑地又は緑化施設のことである。
- (3) 特別緑地保全地区内において、建築物を新築しようとする場合、国土交通大臣に届け出なければならない。
- (4) 緑地協定においては、緑地協定区域、緑地の保全又は緑化に関する事項のうち必要なもの、緑地協定の有効期間及び緑地協定に違反した場合の措置について定めなければならない。

〔問題 19〕 造園工事における法令に基づく必要な手続に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 貝づか、古墳その他埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地を工事の目的で発掘しようとする場合には、文化財保護法に基づき、原則として、都道府県の教育委員会に届け出なければならない。
- (2) 道路に工事用の足場を設け、継続して道路を使用する場合、道路法に基づき警察署長に届け出なければならない。
- (3) 騒音規制法に基づき指定地域内において、著しい騒音を発生する一定の建設工事を施工しようとする場合は、市町村長に届け出なければならない。
- (4) 都市計画法に基づき風致地区において、木竹の伐採をしようとする場合は、原則として、都道府県知事又は市町村長の許可を受けなければならない。

〔問題 20〕 「建築基準法」に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 建築主は、建築主事の確認を受けた工事を完了した場合には、建築主事の検査を申請しなければならない。
- (2) 特定行政庁は、建築主に対して、違反建築物について工事の施工の停止を命じることができ、当該工事の請負人に対してはこれを行うことができない。
- (3) 床面積の合計が100㎡の建築物を除去しようとする場合、除却工事の施工者は、建築主事を経由して、その旨を都道府県知事に届け出なければならない。
- (4) 工事の施工者は、工事の施工に伴う地盤の崩落、建築物の倒壊等による危害を防止するために必要な措置を講じなければならない。

〔問題 21〕 建設業の許可に関する記述のうち、「建設業法」上、正しいものはどれか。

- (1) 建設業を営もうとする者は、2以上の都道府県の区域に営業所を設けて営業をしようとする場合には、営業所の所在地を管轄する各々の都道府県知事の許可を受けなければならない。
- (2) 国が発注する建設工事を請け負うためには、国土交通大臣の建設業の許可を受けていなければならない。
- (3) 請け負った建設工事に附帯する建設工事であっても、その附帯工事が許可を受けている建設業の種類でなければ、附帯工事を請け負うことはできない。
- (4) 建設業の許可を受けた建設業者が、許可を受けてから1年以内に営業を開始しない場合、又は引き続いて1年以上営業を休止した場合には、建設業の許可は取り消される。

〔問題 22〕 元請負人の義務に関する記述のうち、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

- (1) 元請負人は、その請け負った建設工事を施工するために必要な工程の細目、作業方法その他元請負人において定めるべき事項を定めようとするときは、あらかじめ、下請負人の意見をきかなければならない。
- (2) 元請負人は、下請負人からその請け負った建設工事が完成した旨の通知を受けたときは、当該通知を受けた日から1月以内で、かつ、できる限り短い期間内に、その完成を確認するための検査を完了しなければならない。
- (3) 元請負人は、下請負人が請け負った建設工事について、元請負人自らが行う検査によって建設工事の完成を確認した後、下請負人が申し出たときは、原則として、直ちに、当該建設工事の目的物の引渡しを受けなければならない。
- (4) 元請負人は、請負代金の出来形部分に対する支払い又は工事完成後における支払いを受けたときは、当該支払いの対象になった建設工事を施工した下請負人に対して、下請代金のうち、労務費に相当する部分は現金で支払うよう適切な配慮をしなければならない。

〔問題 23〕 「労働基準法」に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 使用者は、労働者の退職に際して、権利者である労働者の請求があった場合は、60日以内に賃金を支払わなければならない。
- (2) 使用者は、労働者が、退職の場合において、使用期間、業務の種類、退職の事由等について証明書を請求した場合においては、遅滞なくこれを交付しなければならない。
- (3) 使用者は、労働者の過半数で組織する労働組合と労働基準法第36条に基づき書面による協定をし、行政官庁に届け出た場合においては、その協定で定めるところによって労働時間を延長し、又は休日に労働させることができる。
- (4) 親権者は、未成年者に代わって労働契約を締結することはできない。ただし、親権者は、労働契約が未成年者に不利であると認める場合においては、将来に向かってこれを解除することができる。

※問題 24～問題 29 については正解番号を全てめりつぶしてください。

次の〔工事数量表〕及び〔工事に係る条件〕に基づき造園工事の施工管理に関して、以下の問題 24～問題 29 について答えなさい。

〔工事数量表〕

工 種	種 別	細 別	規 格				単位	数量	備考
植 栽 工	高 木 工 植 栽 工	シラカシ	H(m)	C(m)	W(m)	株立数	ほん本	20	
			4.5	0.25	1.2	—			
		コナラ	H(m)	C(m)	W(m)	株立数	ほん本	10	
			3.0	0.15	—	3本立			
		ウメ	H(m)	C(m)	W(m)	株立数	ほん本	3	
			2.0	0.15	0.80	—			
		(A)	H(m)	C(m)	W(m)	株立数	ほん本	3	
			*	*	*	*			
		サルスベリ	H(m)	C(m)	W(m)	株立数	ほん本	10	
			3.0	0.18	1.2	—			
		サザンカ	H(m)	C(m)	W(m)	株立数	ほん本	10	
			2.0	0.15	0.60	—			
移 植 工	高 木 工 移 植 工	シラカシ	H(m)	C(m)	W(m)	株立数	ほん本	5	
			5.0	0.50	2.0	—			
	根 回 し 工	ケヤキ	H(m)	C(m)	W(m)	株立数	ほん本	10	*
			6.0	0.60	3.0	—			
公園施設等 撤去・移設工	公園施設等 撤 去 工	公園施設等 撤 去 工	コンクリート製四阿 (W 5 m × D 10 m × H 3.5 m)				き基	3	

注) 表中の*の欄に入る語句又は数値は、出題の趣旨から記入していない。

〔工事に係る条件〕

- 本工事は、関東地方の地区公園の再整備区域において、上記の工事数量表に基づいて施工するものである。
- 高木移植工のシラカシは、再整備区域内に生育しているものであり、前年に根回しを行っている。
- 根回し工のケヤキは、再整備区域内に植栽されているものについて、次年度以降に移植することを予定している。
- 高木植栽工においては、移動式クレーンを用いて作業を行うものとする。
- 公園施設撤去工は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づく建設工事に該当している。
- 工期は6月1日から翌年の3月10日までである。

〔問題 24〕 本工事の高木植栽工について、次の記述の（A）に当てはまる樹木として、**適切なものを全て**選びなさい。

高木植栽工で使用する花木の開花期について、1月から12月までの1年間で見たとき、開花の早い順で並べると、ウメ、（A）、サルスベリ、サザンカとなる。

- (1) エゴノキ
- (2) キンモクセイ
- (3) ハナミズキ
- (4) サツキツツジ

〔問題 25〕 本工事のシラカシの移植に関する記述として、**適切なものを全て**選びなさい。

- (1) 運搬に際し、梢から下方へ、幹に近い内側の枝から外枝へという順序で、枝をまとめて縄で幹に引きつけて結びとめた。
- (2) 植え穴は、根鉢が余裕をもって入る大きさとし、穴の底は土を細かく砕いて柔らかくし、中央をやや高く仕上げた。
- (3) 埋め戻す際に、養分を吸収しやすいように、根に直接接触するように肥料を施した。
- (4) 埋め戻した後に、雨水や灌水を集めて浸透しやすくするため、鉢の外周に沿って浅い溝を掘って水鉢を切った。

〔問題 26〕 本工事のケヤキの溝掘式根回しに関する記述として、**適切なものを全て**選びなさい。

- (1) 太根を残しながら鉢周りを掘り込み、この内、支持根となる力根を三方又は四方に残し、他の太根などは鉢に沿って切断した。
- (2) 環状はく皮のため、鉢周りに接した部分から幅3cm程度、養分の流通を阻害しないよう内皮を残して外皮を取り除いた。
- (3) 風により木が倒れることや、新根が切断されることを防ぐため、支柱を取り付けた。
- (4) 樹木の生理作用を調節するために、地上部の枝葉を剪定し、切断を行った地下部の根系とのバランスをとった。

〔問題 27〕 本工事の公園施設撤去工によって生じる建設副産物に関する記述のうち、**適当なもの**を**全て**選びなさい。

- (1) 元請業者は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に基づき、工事着手の5日前に、着手の時期、工程の概要、分別解体等の計画について、市町村長に届出を行った。
- (2) 元請業者は、コンクリート塊の再資源化を行う際、再資源化施設の受入れの条件を勧案し、分別並びに破碎を行った上で、再資源化施設に搬出した。
- (3) 排出事業者である元請業者は、建設廃棄物を処理した際の委託契約書及び産業廃棄物管理票（マニフェスト）の写しを1年間保存した上で廃棄した。
- (4) 排出事業者である元請業者は、建設廃棄物の処理を委託した産業廃棄物処分業者と、廃棄物の運搬及び処分を一括して契約した。

〔問題 28〕 本工事の高木植栽に用いる樹木の寸法規格の判定として、「公共用緑化樹木等品質寸法規格基準（案）」に照らし、**合格となるものを全て**選びなさい。

樹種	樹高 (m)	幹周 (m)	枝張り (m)	株立ち数
シラカシ	4.5	0.25	1.2	—
コナラ	3.0	0.15	—	3本立

- (1) 樹高が5.2 mのシラカシで、幹周が0.29 m、枝張りが最大幅で1.4 m、最小幅で1.0 mのもの。
- (2) 樹高が4.7 mのシラカシで、幹周が0.26 m、枝張りが最大幅で1.3 m、最小幅で1.2 mのもの。
- (3) 3本立のコナラで、樹高がそれぞれ3.2 m、3.0 m、2.1 m、幹周がそれぞれ0.08 m、0.07 m、0.05 mのもの。
- (4) 4本立のコナラで、樹高がそれぞれ3.3 m、3.1 m、2.2 m、1.9 m、幹周がそれぞれ0.09 m、0.08 m、0.05 m、0.04 mのもの。

〔問題 29〕 本工事の移植工における移動式クレーンの作業に関する記述のうち、「労働安全衛生法」及び「クレーン等安全規則」上、誤っているものを全て選りなさい。

- (1) 移動式クレーンの定格荷重とは、その構造及びジブの傾斜角等に応じて負荷させることができる最大の荷重のことで、フック、バケット等のつり具の重量に相当する荷重を含めた荷重のことである。
- (2) つり上げ荷重が3tの移動式クレーンを使用する際、小型移動式クレーン運転技能講習の修了者を運転業務に就かせた。
- (3) アウトリガーを最大限張り出すことはできなかったが、クレーンに掛ける荷重がアウトリガーの張り出し幅に応じた定格荷重を確実に下回っていたため、作業を行わせた。
- (4) 強風により作業の実施について危険が予想されたので、転倒を防止するため、必要な広さ及び強度を有する鉄板を敷設し、アウトリガーを最大限張り出した上で作業を行わせた。